

日本遺伝学会 第91回大会 男女共同参画公開ランチョンワークショップ

福井大学文京キャンパスにおいて開催された日本遺伝学会第91回大会では、日程初日2019年9月11日(水)12:00~13:10に、『女性にとってワークとライフの境目は?~女性就業率ナンバーワン福井県の秘訣!~』と題したランチョンワークショップをおこなった。参加人数は100人を超えて盛況であった。冒頭の会長挨拶では、人間は、子育てに労力を使う動物で、今の時代に女性が社会進出をしようとするとう子育てがネックとなることは明らかで様々な支援を行なっていく必要がある。鳥は巣作りしてから卵を産むもので卵を産んでから鈴粟をする鳥はいない、とインフラ整備の充実の必要性を説明された。大会参加時アンケートの解析結果について、男女共同参画担当幹事が報告を行った。2019年の全会員に占める女性割合は23.8%(一般会員16.1%、学生会員38.0%)で過去最高値であった事は喜ばしいが、一方で、職位が上がるほど女性比率が下がる傾向は続いている。また、男女問わず博士課程の学生の参加者が非常に少なく将来的な心配要因であること。発表形態別の男女比などについて報告された。続いて、福井大学男女共同参画推進センター長の末信一朗先生に福井大学における男女共同参画推進の取り組みについてご講演をいただき、福井大学男女共同参画推進センターの活動をご説明頂いた。また福井県は就業率全国1位であるが、管理職登用率は9%と低いことが指摘されている。裏作ができなかったため女性が機織りなどで現金収入を稼いできたことが背景としてあり、共働きが多いことから惣菜コーナーがとても充実しており、福井モデルという祖父母に預けて働くスタイルが一般的であるという紹介があった。続いて福井県立大学の丸山千登勢先生に「働き盛り世代のワークライフバランスーやって失敗はただの失敗。やらずにいるのは大失敗」と題した講演をして頂いた。丸山先生の学会でのラウンドテーブルディスカッションから働き盛りの世代の悩みはそれぞれ多様でその支援も多様でなければ対応できないとのご意見を頂いた。また先生のキャリアパスがユニークで会場の若手会員の励みになった。